

文教協会報

No.681

(令和5年11月)

まなびの泉
心のかよいあい

わくわく協働活動
ぬくもり
ふるさと・再見
声 こえ VOICE
～文教のまち 大垣～
ふるさと美術散歩⑤

小学校教員英語指導力向上研修……………2
「みんなで積極的に参加し 心豊かなたくましい子どもを育てよう」(多良小学校)…3
これからのPTA活動に向けて (西部中学校)……………3
大垣ジュニアリーダーズクラブ……………4
大垣市の不登校児童生徒への支援について……………5
戸田氏一族の歴史……………6
スイトピアセンターを探検しよう……………7
令和5年度「市民と先生の意見交換会」……………8
大垣市守屋多々志美術館を訪ねて……………8



大垣市立江並中学校生徒の作品



小学校教員英語指導力向上研修

大垣市では、多様なニーズに応じた教育やグローバル化に対応した教育を推進しています。英語教育では、全国に先駆け2007年度から市内全小学校の3年生以上を対象に、「英語科」の授業を行っています。

本市では、小学校の教員が自信をもって英語の授業を進めることができるよう、「教職員エキスパート育成事業」の中で、「小学校教員英語指導力向上研修」を行っています。この研修では、民間の語学教室を活用しています。個々の能力やニーズに合った内容のレッスンを受講することで、英語によるコミュニケーション能力や英語の授業力を高めることを目指しています。

本年度は、オンラインで行う7回の「英語力向上研修」と参集で行う2回の「授業力向上研修」に加え、1日で行う「イングリッシュキャンプ」を設定しました。そして、計10回の研修に参加するコースを「10回コース」、「イングリッシュキャンプ」のみに参加するコースを「1日コース」として研修を実施しました。

7回の「英語力向上研修」では、教員が自信をもって英語でやり取りをすることができるよう、レベル別少人数の英会話レッスンを行いました。また、2回の「授業力向上研修」では、授業の実践力向上を目指して指定教科書を使用したレッスンを行いました。

「イングリッシュキャンプ」では、英語を話すことへの自信を高め、授業内で活用できる場面を増やせるよう、それぞれのグループにはネイティブ講師が1名つき、グループ別の即興プレゼンテーションやグループ対抗のディベートなどを行いました。

来年度も教職員の資質向上を図るため、よりよい研修を計画していく予定です。



「イングリッシュキャンプ」の様子



「英語力向上研修」の様子



「授業力向上研修」の様子

〈研修を受講された先生方の声〉

初めは、あっているか分からない英語を話すことに不安があり、なかなか自分から話すことができませんでした。しかし、研修を重ねていく中で、講師の先生が優しく励ましたり、アドバイスをしたりしてくださったおかげで、自信がつき、「まずは話してみよう。チャレンジしてみよう」という気持ちで取り組むことができるようになりました。子どもたちの中にも自分と同じ思いを感じている子どもがいるかもしれないので、今回学んだことを授業にいかしていきたいです。

(学校教育課 中川 由裕)



みんなで積極的に参加し 心豊かなたくましい子どもを育てよう！

多良小学校 PTA会長 三輪 史郎

見出しは、多良小学校PTAのスローガンです。この役職に就いて、改めて多良の良さ、すばらしさに気づかされました。良い人が多く住む土地であり、地名となりました。小さい頃から、うっそうと木々が茂った暗い坂道の通学路を、友達と元気よく歩いて小学校へ通ったことなど、懐かしさが思い出となってたくさん蘇ってきました。近年、大雪の時も娘が休まず登校する姿を見ていると、このままたくましく育てて欲しいと切に思いました。子どもの幸せを願う気持ちにはどの親も同じです。4月の授業参観の時には、「みんなで子どもたちのために頑張りましょう。」と呼びかけました。今年に限らず、授業参観はもちろん、資源回収や親子奉仕活動などの行事や活動の参加率は、ほぼ100%でした。↑



資源回収の様子

↑PTA会長として感謝しながら、それと同時に誇りに感じています。

このような多良小のPTAですが、特別に何かをしているわけではありません。また保護者だけで、子どもたちを育てているのではなく、学校の先生はもちろん、地域の方からのご支援・ご協力もいただいていると思っています。前述したように、資源回収には、地域の全世帯の方に協力していただけていますし、親子奉仕活動では、学校支援ボランティアの方々により、一緒に草取りや草刈りをしていただけています。他にもプール掃除や星を観る会、子どもとともに学ぶ家庭教育学級（今年は、地元の企業の協力を得て、「タマネギの皮で染め物に挑戦SDGs」でした）など、みんなで積極的に参加した行事や活動がたくさんありました。今後は、統合・閉校に向けて色々なことがありますが、心豊かにたくましい子どもに育ってくれることを願い、学校の先生、地域の方と協力しながらPTAとしてできることを精一杯、行っていこうと思っています。



親子奉仕活動の様子

これからの PTA活動に向けて

西部中学校 PTA会長 児玉 佑亮

今年の西部中学校PTAは、「子供達の応援団～寄り添う心を大切に～」をスローガンに活動しております。

学校の北門・西門に立ち、登校してくる生徒のみなさんに「おはようございます」と声をかける、あいさつ運動。この活動の良いところは、直接生徒のみなさんと関わることです。あいさつをしたら元気良くあいさつを返してくれる生徒や、照れながらもあいさつを返してくれる生徒。近年、あいさつができない子ども達が増えていく中で、とても嬉しくなり、こちら清々しい気持ちになります。

ボランティア奉仕活動では、保護者・生徒・先生・PTA会員・地域の方からボランティアを募り、学校の運動場の清掃活動を行いました。この活動で大事なことは、PTA会員であるか↑

↑ないかではなく、学校・子どもたちの為に集まって奉仕活動をする、この気持ちではないでしょうか。PTAだけで活動するのではなく、周りも巻き込んでいく。そんなスタイルがこれからのPTA活動の在り方だと思います。

今、PTAは変革の時期に来ています。さまざまな活動をしていく中で、やはり、今の時代に合っていないのではと思うことが多々あります。今の時代に合わせた活動、そして仕組み作りをこれからの課題とし活動していきたいと思っています。



あいさつ運動の様子

大垣ジュニアリーダーズクラブ

○大垣ジュニアリーダーズクラブについて

大垣ジュニアリーダーズクラブは、昭和41年（1966年）に有志で結成されたボランティア団体です。ジュニアリーダーとは、地域の子ども会活動を中心に、大人と子ども、子ども同士を取りまとめる「子ども会のお兄さんとお姉さん」として活躍する存在のことを言います。本クラブでは、野外活動での知識やレクリエーション技術、集団活動に必要な気づきの習得など、部会や研修会を通じて、リーダーとしての資質を高めるため、日々活動しています。また、子ども会活動のみならず、各地域や市の事業にも積極的に参加し、社会奉仕活動に努めています。

会員は市内在住の中高生で組織されており、普段の学校生活では出会うことができない仲間との交流や、自らが主体となって活動する経験をとおして、リーダーとして成長することをねらいとしています。それらの活動を大垣市教育委員会と大垣市青年の家（指定管理者：特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会）、大垣市子ども会育成連絡協議会が支援しています。



子ども会リーダースクールの様子

○主な活動内容について

1 子ども会リーダースクール（年3回）

子ども会のリーダーとして活躍できるように、市内の小5～中1を対象に、宿泊プログラムを企画運営しています。内容はキャンドルセレモニー、レクリエーション、野外炊事など多岐にわたります。

2 定期的に行う部会・研修会（毎月3～4回）

活動拠点である青年の家で、子ども会リーダースクールの計画や練習を重ねています。会員で内容を計画し、自主的な活動をしています。

3 市外のジュニアリーダーとの交流（不定期）

ジュニアリーダーの組織は全国にあり、各地域で開催される研修会・交流会に参加し、スキルアップを図っています。

4 子ども会・市内事業への派遣活動（不定期）

子ども会からの派遣申請を受け、運動会やお楽しみ会、クリスマス会などに参加し、レクリエーション、バルーンアートなどをとおして子どもたちとの交流を行っています。



キャンドルセレモニーの様子



研修会の様子

○会員募集について

本クラブは、子ども会活動を支援し、市や地域の行事にスタッフとして参加するボランティア団体です。中高生の皆さん！会員となって一緒に活動してみませんか！



詳細は当クラブホームページから↑

（特定非営利活動法人大垣市レクリエーション協会 岩本 瞬汰）

大垣市の不登校児童生徒への支援について

コロナ禍において、生活環境の変化により生活リズムが乱れたり、様々な制限の中で他者とコミュニケーションが図りづらい状況にあったりしたためか、不登校や不登校傾向の児童生徒の数が全国的に増えてきており、本市でも同様の傾向が見られます。今回は、そのような状況にある児童生徒や保護者に対し、本市が行っている支援についてご紹介します。

不登校児童生徒とは

『年間30日以上登校しなかった児童生徒のうち、何らかの心理的、情緒的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にある児童生徒』を言います（文科省）。子どもたちの悩みは様々であり、うまく言葉にできないことや、理由が分からないこともあります。困った時は、学校や教育委員会にご相談ください。

不登校支援の考え方

不登校は、取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起り得ます。その要因や背景、不登校である期間やその受け止め方は、個々の状況によって多様です。「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて社会的に自立することを目指す必要があります。

不登校の児童生徒や保護者に対して、現在本市では次のような支援を行っております。

○各学校による支援

小・中学校では、不登校児童生徒への支援のために、休み始めの家庭訪問やすべての児童生徒との教育相談のほか、別室登校や放課後登校、スクールカウンセラーとの連携、適応指導教室「ほほえみ教室」の紹介等、個々の不登校児童生徒や学校の状況に応じた取組をしています。

〔具体的な支援の例〕

- ◆定期的な電話連絡や家庭訪問による面談
- ◆専門家スクールカウンセラーによる教育相談
- ◆学習プリント等による個別支援学習

◆ICT機器を活用したオンライン学習

◆ほほえみ相談員*による支援

◆別室（教育相談室等）での支援

※ほほえみ相談員：教室に入ることによる不安を抱えている児童生徒に対して、相談室等で学習支援や相談活動等を行う、市独自の相談員。

○教育委員会による支援

教育総合研究所（スイトピアセンター学習館7F）では、個別の相談のほか、不登校児童生徒が通級できる適応指導教室「ほほえみ教室」での支援を行っています。

◆ほほえみスタディーサポート（HSS）

学習意欲のある不登校の児童生徒に対し、訪問型個別学習支援を行います。

◆メンタルフレンド（MF）

大学生が、引きこもりがちな児童生徒の話し相手や遊び相手となります。

◆電話相談窓口

いじめ、友達関係、不登校など学校生活全般についての相談をお受けしています。

◆来所相談（要 事前予約）

専門的な知識及び経験を有する相談員が、子どもの発達や性格行動面について心理相談を行い、面談や心理検査などを通してアドバイスを行います。

◆適応指導教室「ほほえみ教室」

家庭・学校と連携し、学習活動（自習が基本）や個人活動、体験活動、本人に対する定期的な相談活動を行っています。入級に関しては、まず学校にご相談ください。

教育総合研究所 TEL 0584-74-6666

9月1日には、学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）である「学校法人西濃学園」との間に、不登校児童生徒の支援に関わる協力協定を結びました。西濃学園が長年培ってきた指導や支援のノウハウをもとに、不登校児童生徒への支援だけでなく、すべての児童生徒へのさらなる支援の充実を図ってまいります。

（大垣市教育総合研究所 東 次朗）

戸田氏一族の歴史

KAGAYAKI SPOT

1 はじめに

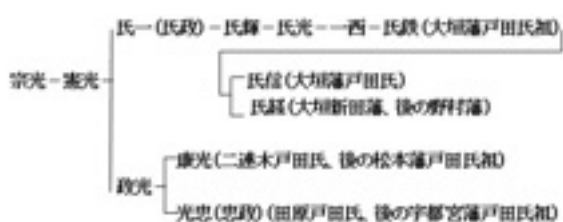
大垣市の大部分は、江戸時代、大垣藩と呼ばれていました。大垣藩と戸田氏の関わりは、寛永12年（1635）戸田氏鉄が初代藩主になって以降、明治4年（1871）、廃藩置県の際の11代戸田氏共に至るまで、代々藩主をつとめてきました。また、同族の戸田氏も松本藩、宇都宮藩の藩主をつとめていました。

2 戸田氏一族

戸田氏の本姓は藤原で、閑院家の祖藤原公季の子孫である正親町三条家支流の戸田宗光を祖とするといわれています。宗光は、内大臣三条公保の子といわれ、はじめ実光と称しました。後に、正親町家の領地であった三河国碧海郡上野（現・愛知県豊橋市）に移り住み、戸田を氏としました。

宗光の子、憲光には、氏一（氏政）、政光がおり、兄の氏一にはじまる家系が、後の大垣藩戸田氏の流れになりました。また、弟の政光には、康光、光忠（忠政）がおり、兄の康光にはじまる家系が二連木戸田氏、後の松本藩戸田氏、弟の光忠にはじまる家系が田原戸田氏、後の宇都宮藩戸田氏の流れになりました。

【戸田氏一族略譜】



3 大垣藩戸田氏

氏一が早くに亡くなったため、子の氏輝は、二連木（現・愛知県豊橋市）に移り、分家して松平清康・広忠に仕え、その子氏光は、家康に仕えました。

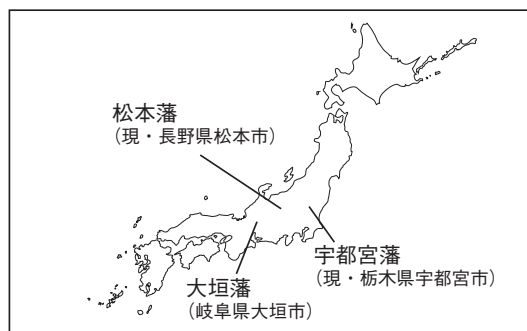
一西の時、近江国膳所（現・滋賀県大津市）藩主となり、氏鉄の時に摂津国尼崎（現・兵庫県尼崎市）藩主をへて、大垣藩主となりました。その後は、11代氏共に至るまで代々大垣藩主をつとめました。また、氏鉄の次男、氏経が分家し、3代氏成の時に、大垣新田藩を立藩し、10代氏良の時に野村藩と改名しました。

4 松本藩戸田氏

政光の子、康光を祖とし、二連木城を居城とした戸田氏を二連木戸田氏といいました。康光のひ孫康長の時に徳川氏との姻戚関係により、松平姓を下賜され、信濃国松本藩主となりました。2代康直の時に播磨国明石藩主、3代光重の時に美濃国加納藩主、5代光熙の時に山城国淀（現・京都府京都市）藩主、6代光慈の時に、志摩国鳥羽藩主となった後、再び信濃国松本藩主となりました。その後は、14代光則に至るまで代々松本藩主をつとめました。

5 宇都宮藩戸田氏

康光の弟の光忠を祖とし、田原城（現・愛知県田原市）を居城とした戸田氏を田原戸田氏といいました。光忠の子、忠次が家康に仕え、その子の尊次の時に三河国田原藩主となりました。3代忠昌の時に下総国佐倉藩主等をつとめ、4代忠真の時に越後国高田藩主をへて下野国宇都宮藩主となりました。6代忠盈の時に肥前国島原藩主となりましたが、7代忠寛の時に再び、宇都宮藩主となりました。その後、13代忠友に至るまで代々宇都宮藩主をつとめていました。



6 おわりに

戸田氏一族は、大垣藩、松本藩、宇都宮藩へと分かれた後も交流は続いていました。

大垣藩戸田氏初代藩主の氏鉄は、松本藩戸田氏初代藩主の康長の娘を正室に迎えていました。

また、大垣藩から分家した大垣新田藩（後の野村藩）の8代藩主の氏有は、宇都宮藩戸田氏の分家から、11代藩主の氏懿は、松本藩戸田氏から養子にきました。このように、三家に分かれた後も婚姻や養子縁組をとおして、戸田氏一族は交流がありました。

（大垣市立図書館 歴史研究グループ 織田 光一）

スイトピアセンターを探検しよう

大垣市文化事業団 中山 庄三

1 スイトピアセンターはどんなところ？

スイトピアセンターは、学習館・文化会館及び図書館の3館の総称で、スイトは「水の都」、ピアは「ユートピア(理想郷)」の中のトピア「場所」の意味を踏まえ、その名のとおり、水の都「大垣」の中心となる生涯学習施設です。

現在、学習館・文化会館については、公益財団法人大垣市文化事業団が施設管理を委託され、より効果的な管理運営、利用者サービスの向上に努めています。

2 子どもが学べるところはある？

学習館の中に子どもたちが遊びながら学べる施設があります。

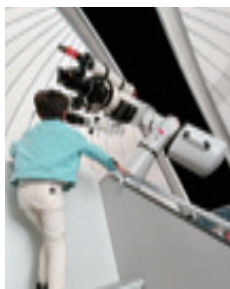
(1) こどもサイエンスプラザ

1階は「都市・人とくらし」、2階は「地球・自然のちから」、3階は「宇宙の神秘」と3つのテーマで、子どもたちが遊び感覚で科学に触れ、学ぶことができます。アイテムがあります。

土・日・祝日開催のスペースウォークは、大人気です。



エントランスにはC-11型蒸気機関車を展示し、4階天体観察室には、20cmの屈折天体望遠鏡が備えられ、日・祝日の昼間には太陽観察、また、毎月第4土曜日の夜には市民天体教室を開催しています。



「科学大好きセミナー」では、市内の企業の協力を得て、未来を担う子どもたちに学習機会を提供しており、「おもしろ科学教室」では、「化石レプリカをつくろう」や「金属探知機をつくろう」などの講座を年間12回開催しています。

(2) コスモドーム(観客席 143席)

市民天体教室では、直径18mの半球傾斜型スクリーンに、プラネタリウムで四季の星座案内

を生解説しています。

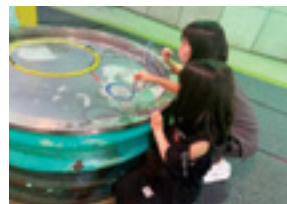
さらに、土・日・祝日および市内小中学校の長期休業日には、全天周デジタルプロジェクターシステムにより、迫力ある映像を3番組、①「宇宙なんちゃら こてつくん プラネタリウム」②「オトツペのウキウキオトペタリウム-星座に音をつけようYO-」③「ハナビリウム〜花火って、なんであるの〜」を上映しています。

(3) 水のパビリオン

水都大垣にふさわしく、水をテーマにした新しい感覚の科学館です。入り口には、3tの石を水の力で押し上げる「まわる巨大な石」があります。



アクアリウム水槽では、地元の魚や天然記念物の「ハリヨ」を観賞することができ、また「大きなシャボン玉づくり」など、水に関する多くの体験ができます。



3 学習館にはなにがある？

子どもの施設の他に、音楽堂(観客席288席、車椅子用2席、介助用1席)・アートギャラリー・スイトピアホール・茶室・料理教室・各種会議室などがあり、生涯学習の拠点となっています。

4 文化会館にはなにがある？

文化ホール(観客席589席、車椅子用2席、介助用1席)・会議室・展示室があります。

ここでは、コンサート、演奏会や演劇などを開催しています。また展示室では、市美術展をはじめ、地元の子どものお年寄りまでが制作したさまざまな作品の展示会が行われています。

5 スイトピアセンターのさらなる活用を

地元の小学校の社会見学や地域探検などに利用していただいています。

今後は、1日過ごせるテーマパークになるように、また皆さんにとって、スイトピアセンターがわがまち自慢に選ばれるように頑張ります。



～ 文教のまち 大垣 ～

令和5年度「市民と先生の意見交換会」

8月1日（火）、令和5年度「市民と先生の意見交換会」を開催しました。今年度は、オンラインではなく、ソフトピアジャパンを会場にして、参集で開催することができました。

基調講演では、一般社団法人GLIPの栗山圭介氏に「未来のためのふるさと教育」を演題にお話いただきました。

グループ討議では、各中学校区でグループをつくり、文教協会役員・教員・PTAの方で、「自分のふるさとに愛着と誇りをもつ子どもを育てるために、学校と保護者でできること」について、話し合いました。栗山氏の基調講演でも話題になった、「ふるさとのよさや課題（こんな地域だったらいいな）を表現できる子どもにしていきたい」ということをもとにして、地域のよさやそれを子どもたちにどのように還元できるか意見を出し合いました。どのグループでも、

熱心に討議され、時間が足りないくらいでした。

最後は、グループの発表、栗山氏の総括で締めくくられました。

文教協会60周年事業につながる会となりました。グローバル化が進む中、ふるさとのことを心に留めることができる子どもたちにしていきたいと思いました。



グループ討議の様子

（学校教育課 鈴木 宏教）

ふるさと美術散歩⑤ 大垣市守屋多々志美術館を訪ねて



《悔過 (持統天皇)》昭和62年 (1987) (大垣市蔵)

黒を主体とした大変暗い色調の作品です。左下に描かれている人物が、第41代天皇である持統天皇（645～702、在位690～697）です。

叔父・天武天皇（大海人皇子）の皇后となり、天武天皇の崩御後、飛鳥浄御原令の制定、藤原京を造成して新しい都としました。

また、小倉百人一首にも「春すぎて夏来にけらし白たへのころもほすてふあまの香具山」の和歌が選ばれ、名前を聞いたことがある人も多いのではないのでしょうか。

さて、作品名の「悔過」とは、罪を悔いて謝罪することを意味しますが、持統天皇の謝罪とは、いったい何のことでしょうか。

わが子草壁皇子を皇位につけるため、天武天皇の後継者の一人とされた大津皇子を謀反の罪で害に追い込んだのは、持統天皇の謀略とも言われています。高い理想と信念をもって夫の遺業を継ぎましたが、権力抗争で殺していった人々に対し、深い信仰心から悔い改める心を表現しているのです。

背景の左上には八坂瓊曲玉。画面中央の横線は草薙剣。そして大津皇子を想起させる男性の影が映っているのは八咫鏡で、天皇継承に関わる三種の神器が描かれています。また、よく見ると、左下には白い線で、右下には緑の炎で亡者が描かれています。華やかな歴史の影にある人々の思いを、独自の解釈と大胆な画面構成で描いた守屋ならではの作品です。

企画展「大和と古画模写」

会期：令和6年1月11日（木）～3月10日（日）

法隆寺金堂壁画模写などに携わった守屋の修業時代の古画模写や、大和を舞台に描いた作品を展示。

